

電子地形図25000

測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 3JHs 903

初瀬

135° 52' 30.00"
34° 35' 0.00"

135° 0' 0.00"
34° 35' 0.00"

活構造凡例

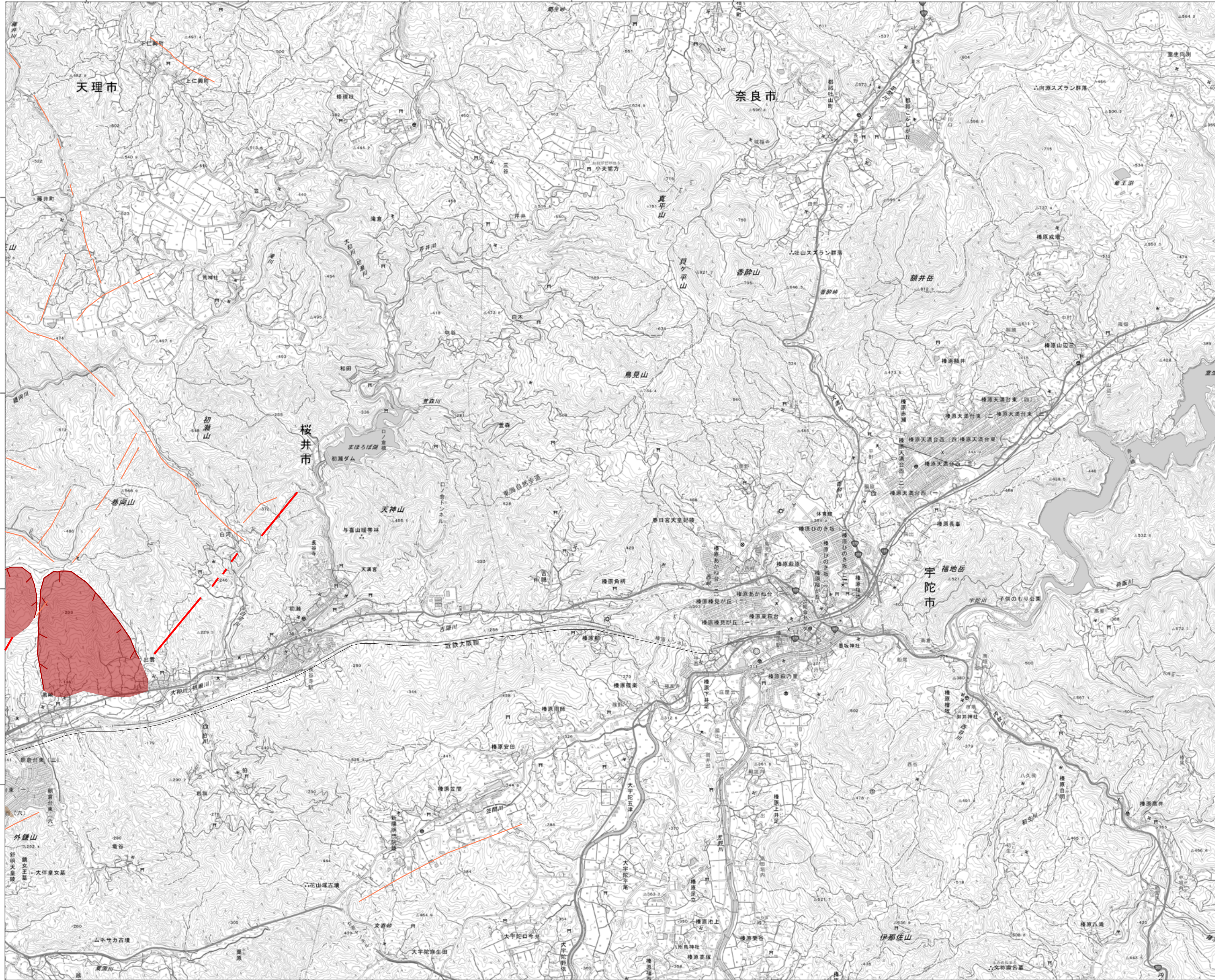
- 活断層 (地表に破断変形生じる可能性大)
- 伏在活断層 (変位基準なし・地表に破断変形生じる可能性大)
- 推定活断層 (第四紀後期の活動未確定・地表に破断変形生じる可能性あり)
- 活背斜 (地表に背斜 (引張) 変形生じる可能性大)
- 活向斜 (地表に向斜 (圧縮) 変形生じる可能性大)
- 活撓曲 (幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
- 伏在活撓曲 (変位基準なし・幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
- 推定活撓曲 (第四紀後期の活動未確定・幅数10~数100mの傾動が生じる可能性あり)
- 傾動帯 (幅数100m以上の傾動変形生じる可能性大)
- 傾動方向 (矢の方向に傾き下がる)
- リニアメント・古期断層 (地表に断層変位をもたらす可能性低い)

調査項目凡例

- 地形断面位置
- 反射法地震探査測線
- ☆:断層
- :傾斜変換点
- トレンチ調査地点
- 調査ボーリング地点重要露頭

地形凡例

- 1930~40年代の水路 (ため池など:その後埋め立てられたもの・現水路を含む)
- 旧河道 (埋め立てられた川の跡)
- 自然堤防および破堤地形 (堆積) (洪水時に土砂が堆積した微高地)
- 天井川 (歴史時代に形成された周囲より河床が高い川)
- 緩斜面 (土石流堆積物などが堆積して作られた斜面)
- 低位5面 (完新世後期=数千年前以降にできた段丘)
- 低位4面 (完新世=約1万年前以降にできた段丘)
- 低位3面 (更新性末期=約1.5万年前ごろにできた段丘)
- 低位2面 (後期更新世後期=約2万年前ごろにできた段丘)
- 低位1面 (後期更新世中期=約4万年前ごろにできた段丘)
- 中位2面 (後期更新世前期=約8万年前ごろにできた段丘)
- 中位1面 (後期更新世初頭=約10~12万年前にできた段丘)
- 高位2面 (中期更新世後期=約20万年前ごろにできた段丘)
- 高位1面 (中期更新世=数10万年前にできた段丘)
- 地すべり地形 (過去の地すべりによって作られた斜面)



記号

4車線以上	電子基準点	特別標高点
2車線幅員13m以上	三角点	標高点
2車線幅員13m未満	水準点	標高点
1車線道路	市役所	神社
幅員3.0m未満の道路	町役場	寺院
徒歩道	町村役場	高校
国道及び国道番号	官公署	橋
高速道路	裁判所	風車
都道府県道	税務署	ガス井
有料道路	消防署	灯台
農道	保健所	坑口
石段	警察署	温泉
	X 交番	噴火口・噴気口
	郵便局	採鉱地
	小・中学校	城跡
	高等学校	史跡・名勝・天然記念物
	病院	港
	地下の鉄道	博物館
	特殊鉄道	図書館
	路面の鉄道	記念碑
	索道 (リフト等)	老人ホーム
	建設中または運行中止中の鉄道	自然災害伝承地
	橋及び高架部	電波塔
	田	
	畑	
	茶畑	
	果樹園	
	所屬農地	
	特定地区界	
	送電線	

普通建物	立体交差	せき
変ろ建物	墓地	水割
高層建物	分離帯	ダム
無蓋タンク等		地下の水路
		水路方向
		気筒の水路
		水門

湿地	砂れき地	おう地(小)
堆積	岩	おう地(大)
	断崖	土がけ
		雨裂
		岩がけ
		万年雪

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53帯、中央子午線は東経135°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7° 30'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式

135° 52' 30.00"
34° 35' 0.00"

135° 0' 0.00"
34° 35' 0.00"